

水害を受けた木造住宅の対策は？

西日本豪雨の被災者の皆様にお見舞い申し上げます。報道を見ていると 25 年前の 8・6 水害を思い出し胸が痛くなります。水害の翌日から暑い日が続き、従業員や知り合いの方々の援助を受け、住宅の片付けや、工場の再起に汗を流した事を思い出します。幸い直ぐ近くに井戸水があり冷たい地下水でスイカやジュースを冷やした事で、熱中症に倒れる事も無く、作業をしていただきましたが、工場再会には一ヶ月以上掛かりました。片付けが始まると直ぐ役場の職員が消毒に来ました。感染症や悪臭を防ぐ為との事でした。今テレビを見ていると、多くのボランティアの方々が体調を崩されない事を祈ると共に、災害直後の消毒の大事さを思います。

「家屋の浸水対策マニュアル」という資料等から浸水被害を受けた住宅について考えて見ました。住宅が浸水後にまずしなければならない事は ①汚水や汚泥をきれいに取り除き洗浄・消毒する。その後②乾燥する です。浸水の程度にも寄りますが、③基礎は通気パッキンや外気取り入れ口もきれいにする。床下が土の場合も流れ込んだ汚泥を除去する。④繊維系断熱材はもちろん発泡系断熱材も取り外して乾燥してから再度設置する。⑤床や壁も交換する場合は下地や床下が乾燥してから施工する。⑥ムク材をそのまま使う場合はきれいに洗浄・消毒してからゆっくり乾燥させる事で反りや割れを防ぐ。その他注意すべき事は多々あります。特に洗浄は水があれば浸水が引き始めた時に流せば楽に行えます。川に家が流される映像を良く見ますが、これは流れ込んだ水による洗掘で基礎を支える地盤が削られ、基礎ごと浮上り、流出しているそうです。近年ベタ基礎が多く又高気密住宅の為、洗掘で基礎が洗われると床下の空気や部屋内の空気の家が持ち上がるそうです。川沿いの家は基礎杭による地盤補強で洗掘が生じにくくなり、またベタ基礎より布基礎の方が被害は少ないそうです。

エネルギー主体の高気密住宅造りに災害対策の知恵も合わせて検討したいものです。

「やまと得々ミニ情報」も 23 年目に入りました！

平成 8 年 8 月からスタートした「やまと得々ミニ情報」も、お蔭様で 22 年間続けてくる事ができました。これからも話題の情報を集め、紹介していきます。宜しくお願いします。

【情報】

木材保護塗料ステンプルーフ (14 色) の取扱を始めます

防腐防蟻防虫効果と高い撥水作用があるにも拘らず、塗膜を作らず、透湿性はムク材とほとんど変わりません。キシラデコールと同等以上の県工業技術センターの研究も有ります。

販売価格は 16L 缶 25,000 円 (1562.5 円/L)、4L 缶 7,500 円 (1875 円/L) です。数量により別途運賃がかかりますが、DIY よりお得です。

【定休日】

8 月は 5, 12, 13, 14, 15, 16, 19, 25, 26 日となります

9 月は 1, 2, 8, 9, 16, 17, 23, 30 日となります

宜しくお願いします。



ステンプルーフ